

松本高山Big Bridge構想実現プロジェクト 基本計画



松本高山Big Bridge構想とは？

中部山岳国立公園南部地域を間に挟み、松本市街地と高山市街地を繋ぐ横断ルートを「Big Bridge (ビッグブリッジ)」と位置付け、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光ルートに地域関係者で組成するプロジェクトチームのメンバーで磨き上げていく構想。

この観光ルートは、松本・高山を起終点にしながら、移動距離約70kmから好きなだけ、好きな移動方法で、様々な楽しみ方を提案していくもの。松本城、古い歴史街並み、3000m級の山岳、高原アクティビティ、温泉、里山など、日本最高峰の「日本の屋根・北アルプス」と松本高山という2つの中都市がコンパクトに集結しているエリアだからこそ提供できる魅力づくりを進め、地域一体となった新たな観光圏の確立をめざしています。

About this Area (松本～中部山岳～高山)

中部山岳国立公園南部地域を間に挟む松本～高山間は、明治初期には「筑摩県」として長野県南部～飛騨地方を含む1つの県でした。県庁は松本城に置かれ支庁を高山陣屋に設置されましたが、その歩みはわずか5年程で、第2次府県統合により長野県・岐阜県に分かれていきました。

しかしながら、松本～高山間には、野麦街道やブリ街道など、人と物資の交流は頻繁にあり、昭和28年に国道158号として施行されより人々の往来がしやすい環境が整備されていきました。そのような背景の中、昭和46年には、中部山岳国立公園を絆に相互繁栄を誓い、松本・高山両市が姉妹都市提携の盟約を結び、今日に至っています。

そして、令和3年度には姉妹都市提携50周年の節目を迎え、両市民のさらなる交流の促進や、「松本高山Big Bridge構想」の実現等により、国内外から選ばれ続ける持続可能な観光エリアとしてともに栄えていけるよう取り組んでいくことについて共同宣言を行いました。

特に、両市に跨る中部山岳国立公園南部地域の中でも、とりわけシンボリックな存在とも言える上高地は、国内で2か所しかない「特別名勝」と「特別天然記念物」の称号を与えられ、明治42年頃から100年余り続いている自然保護意識が根付いているという観点からも、この地域の持続可能性と観光圏として磨き上げていくべきだという、地域関係者の想いを示唆しています。



主な地域資源

<認知されれば競争力の高い武器>

一位一刀彫
 飛騨の匠
 発電 (大正池・砂防)
 飛騨大鍾乳洞
 乗鞍ご来光バス・春山バス
 宿難かほちゃ

無名

高値

<競争力の高い武器>

槍・穂高連峰 (3000M級の山) 飛騨家具 松本民芸家具
 五色ヶ原の森 新穂高 上高地
 地酒 乗鞍スカイライン ロープウェイ 飛騨牛
 乗鞍エコーライン
 国宝松本城 湊沢 (の紅葉) 高山祭
 松本大歌舞伎
 高山陣屋 セイジオザワ フェスティバル
 乗鞍スキー場 白骨温泉 高山の古い町並み

有名

<認知・付加価値化すれば競争できそうな武器>

一の瀬園地 (旧牧場)
 ライチョウ・ライチョウ観察ツアー 円空仏
 徳本峠 播隆上人

安値

<付加価値化すれば競争力の高い武器>

松本城下町湧水群 嘉門次小屋 奥飛騨温泉郷
 けいちゃん・野麦峠
 とんちゃん 乗鞍三滝 (善五郎・三本滝・番所) 国宝旧開智学校
 りんご
 平湯大滝



【Our Vision】

新しい発見・体験をしたい
驚きに出会いたい
探究心がある
そんな旅人が通りたくなる、
日本横断のブリッジルートをめざして

私たちは、自らの人生を営むこの地域が、
日本列島で最大級の標高差があり、かつ、
日本アルピニズム発祥の地であることの誇りを持ち、
3000m級の急峻な山々とその恵み、四季を身近に感じる暮らし、
自然への畏敬の念から発せられる文化を通じて、
松本～高山間を横断する旅人がいつ、どこを訪れても、
新しい発見・体験・驚き・探究心を得られるよう、
エリア一体となって提供します。

これにより実現したいのは…

環境への
貢献

自然との良い付き合い方を、
旅人と私たち住人がお互い
に学び合うこと。

人生への
貢献

旅人に滞在して良かった、
また滞在したい、と思って
いただくこと。

社会への
貢献

旅人と私たち住人それぞれ
が持続可能になること。

松本～高山間を通り抜けることで、こんな貢献ができるブリッジルートにしていきます。

【Story】

ようこそ、日本横断のAlpine×City Wonderlandへ
-Discover, Explore, Experience in this Bridge Route-



信州・松本～飛騨・高山を横断する旅は、
標高差約2400mの世界に広がる、山・自然・人・文化から学ぶ物語。

日本アルピニズム発祥の地である、
北アルプスの山脈に広がる、いきものあふれる美しい自然。
日本の東西の分水嶺でもあり、圧倒的な標高差にあって、
人と自然の営みが交錯することで生まれた多様な歴史と文化。
日本の国立公園ならではの四季彩は、日本最高峰の峰々にこそ広がっている。
この地を訪れることは、日本人と自然の共生の歴史を知ることにつながり、
また、あなたの人生を豊かに彩り、あなたらしく生きるヒントが詰まっている。

例えば、
大地のエネルギーが詰まった温泉や自然の力を体全体で感じる散策で、
ココロとカラダを健康に保つためのヒントが。

例えば、
あまりに多様な自然の中で生きていくための仙人の知恵に触れることで、
持続可能な社会や暮らしを探るためのヒントが。

例えば、
日本最高峰の山々への挑戦やこれまで知らなかった生活文化体験で、
人生に向き合うきっかけ・自分磨きのターニングポイントとなるようなヒントが。

信州・松本～飛騨・高山を結ぶAlpine×City Wonderlandを旅することは、
人生に役立つ“小さな”、けれども“重要な”カギを探しに行くようなものだ。

さあ、日本最高峰の山へ、川へ、森へ、町へ。あなたらしい生き方を探しに行こう。

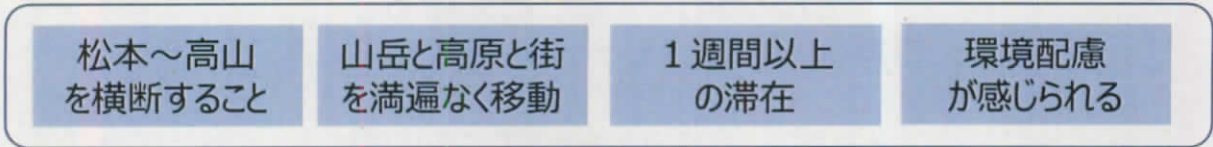
2022年0月00日

松本高山Big Bridge構想実現プロジェクトチーム

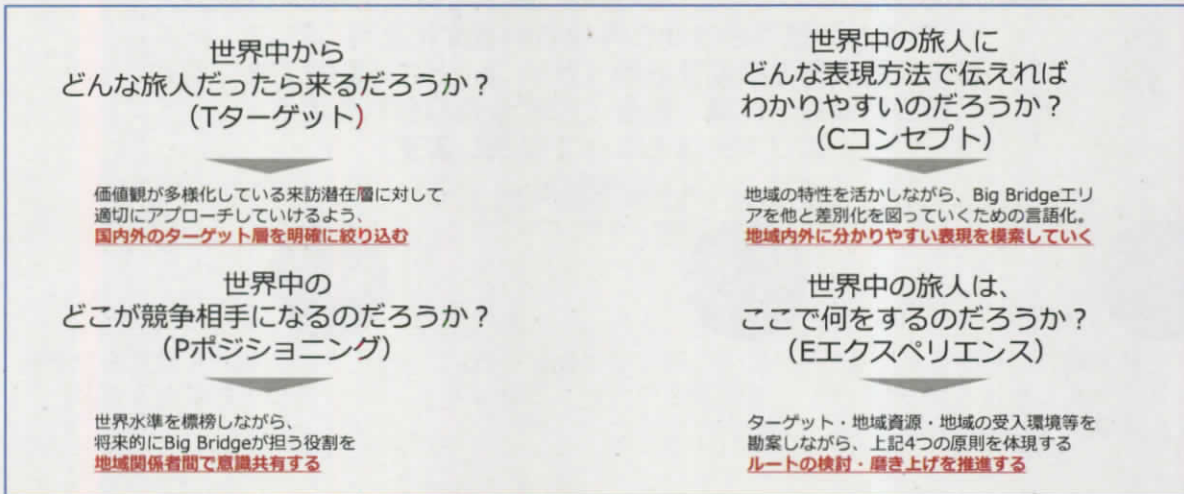
運営者：松本市・高山市・松本観光コンベンション協会・松本市アルプス山岳部・志賀高原自然観光協会・飛騨乗鞍観光協会・飛騨高山観光コンベンション協会
アルピニズム交通株式会社、運賃乗合自動車株式会社、長野県 松本県 長野県観光連盟、岐阜県観光連盟、中部運輸局、北陸運輸局、アクティビティ事業推進会

Big Bridge構想を分かりやすく体現する4つの原則

Vision/Storyを基礎として、旅人が「Big Bridge」を
どのように旅して欲しいかの理想像



この原則を具体化するモデルルートを考えていくことで、ターゲット、コンセプト等を精査



世界中からどんな旅人だったら来るだろうか？

1. ターゲット設定

Big Bridgeプロジェクトで初めにアプローチしていくターゲット層

ターゲット選定にあたっては、「1週間の滞在」「松本～高山の横断」「山岳・高原・街を満遍なく巡る」「環境配慮が感じられる」という4つの要素に対する“来訪可能性の高い”ことを基本に、アフターコロナにおける旅行の価値観の変化やイノベーター理論における“イノベーター”“アーリーアダプター”層へのアプローチ、活用できそうな地域資源という観点を掛け合わせ、以下のターゲット層を選定した。

海外ターゲット

<アプローチ想定>
欧米層（インバウンド・国内在住） / アクティブ
なアウトドア体験を好む / 20～40代 / 小グループ
（Activity Seeker層）



- ・優先度：高
- ・コロナ後の市場回復の状況が早い見込み
- ・環境への配慮への関心は非常に高い
- ・ビギナーから上級者まで様々なレベルに対応できるコースやアクティビティの整備が必須。
- ・ドイツとアメリカのボリュームが大きい。

LIBERATED / 解放感
Outdoor/Wellness

SUSTAINABILITY / 持続可能性
Quality over Quantity

CONNECTED / つながり
Face to Face

国内ターゲット

<アプローチ想定>
都市圏在住女性層 / 美意識・健康意識が高い
（ウェルネス志向） / 20～30代 / 1人旅or友人同士



- ・優先度：高
- ・コロナ後の市場回復の状況が早い見込み
- ・コロナ前は、女性が牽引していたマーケットのため、20-30代の中でも女性アプローチが有効
- ・環境への配慮への関心は非常に高い
- ・「美意識・健康意識」や「体験性」を重視し、リトリートだけでなく、アクティビティへの関心も高い

➡ **高付加価値の体験・サステナブルツーリズム・人と自然の共生**
環境省が目指す国立公園の将来像にも一致する利用者

13

世界中のどこが競争相手になるだろうか？

2. ポジショニング

松本～高山
を横断すること

山岳と高原と街
を満遍なく移動すること

1週間以上
の滞在すること

環境配慮
が感じられること

競争相手を高いレベルにある
世界水準（一週間の滞在ができる人気）の
ハワイやチェンマイや四国などとするか、
それとも、もっと低いレベルの競争にするのか？



国内外の旅人にとって、
Big Bridgeルートが果たすべきは…

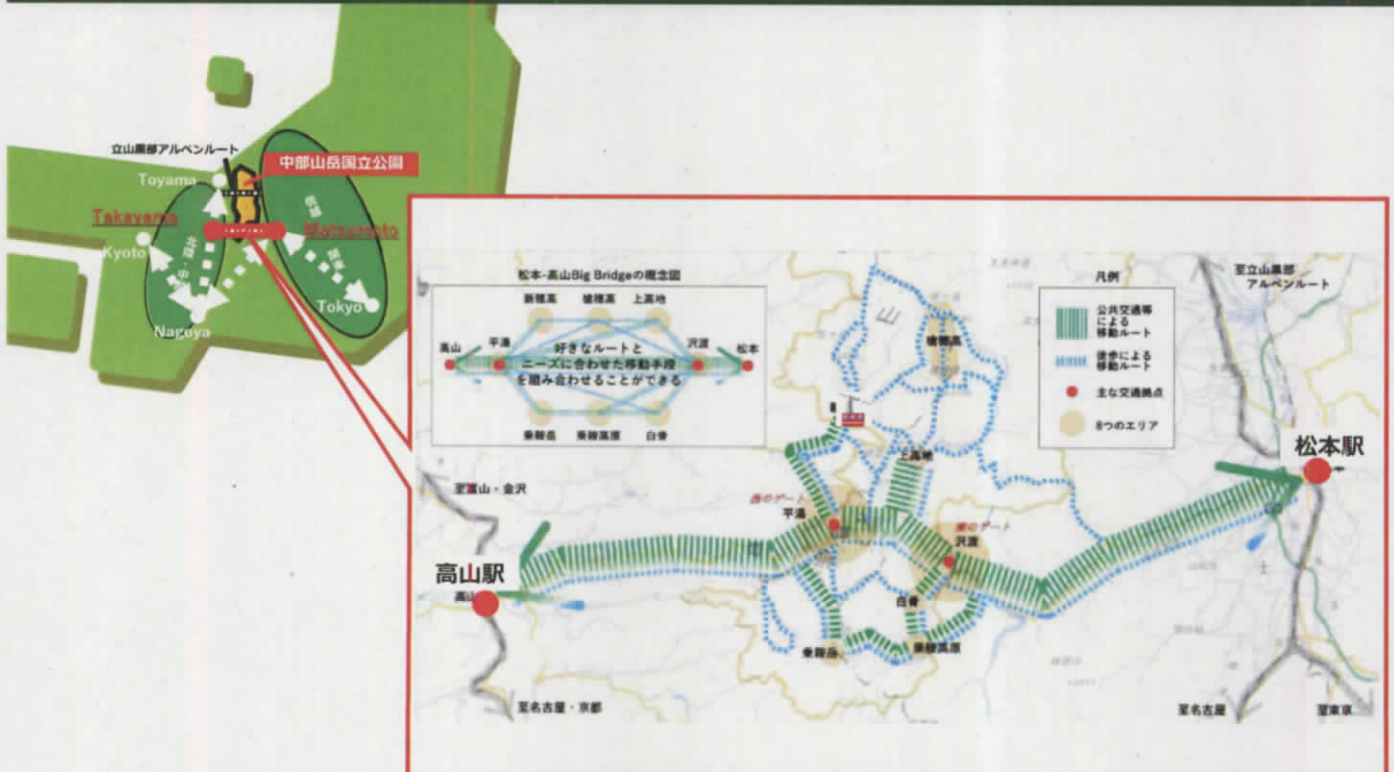
- 日本を旅する時には、必ずBig Bridgeルートを通る
- Big Bridgeルートに行けば中長期の滞在が当たり前
- 自然・山・温泉・歴史など、日本の山岳観光の魅力が結集
・・・etc



これらのステータスを確立できるポジションを目指していき、その結果として

「世界水準」を達成

その結果として…



立山黒部アルペンルートも含め「北陸・中部」と「信越・関東」の両圏域をつなぐ
広域的な観光ルートの要となることを目指す

3. コンセプト

17

コンセプト設定

松本～高山
を横断すること

山岳と高原と街
を満遍なく移動すること

1週間以上
の滞在すること

環境配慮
が感じられること

Alpine × City Wonderland

アルパイン シティ
ワンダーランド

Big Bridge エリアが他エリアと絶対的に違うと言えるところ

地域の競争力の高い武器のひとつでもある3000m級の山々を中心に、空間的に東西南北そして上下に移動できるからこそ感じられる世界観を表現していくことで、設定したターゲットへのアプローチや他エリアとの差別化を図っていきやすい。

4. エクスperiences

モデルルート案①

長期滞在アイデア：
アクティブなアウトドア体験を楽しむ欧米系ターゲットに向けたルートの検討・磨き上げを
地域主導で推進する



モデルルート案②

長期滞在アイデア：

美意識・健康意識が高い（ウェルネス志向）都市型女性層に向けたルートの検討・磨き上げを地域主導で推進する

1日目
松本駅到着。ワイナリーや温泉街を散策。拘りの食事を提供する浅間温泉宿泊

2日目
上高地までバスで移動。バスターミナルから徳沢方面までゆっくりとトレッキング。徳沢宿泊

3日目
徳沢からバスターミナルまで別ルートで戻りバスで乗鞍高原へ。E-bikeなどで滝めぐり。乗鞍高原宿泊

4日目
乗鞍高原でゆっくり過ごし、夕方バスで豊平へ。民宿にチェックインして星空を鑑賞。豊平宿泊



5日目
早朝ご来光を見て、乗鞍岳をトレッキング。午後は温泉街や足湯を楽しむ。奥飛騨温泉郷宿泊。

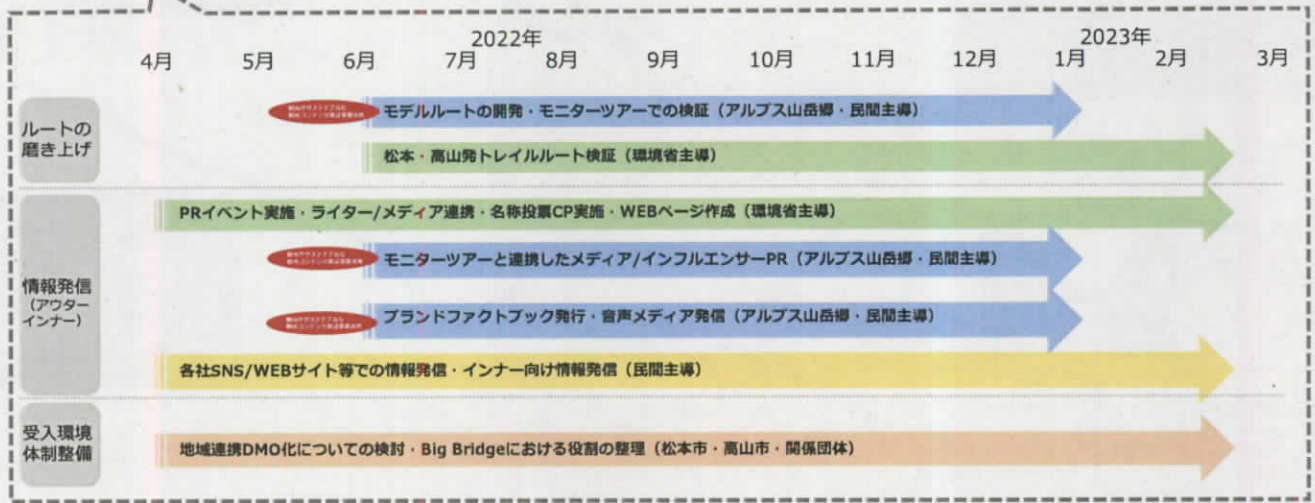
6日目
旅館でのヨガプログラムや用意されている健康増進のプログラムに参加。奥飛騨温泉郷宿泊

7日目
早朝から五色ヶ原の森をショートコースで散策。午後は高山の寺町などをゆっくり散策。高山宿泊

8日目
座禅や古民家カフェを楽しむみつつ町を散策。昼食後、高山駅へ。

推進ロードマップ

ロードマップ（関係する取組の相関図）



松本高山 Big Bridge 構想プロジェクト

～ルート名称投票キャンペーン～

<キャンペーン実施概要（予定）>

■キャンペーン期間：令和4年7月1日～11月15日

※特賞・A賞・B賞の応募は8月31日まで

■応募方法：専用ホームページ及び投票用紙

■賞品：特賞 1名／Big Bridge PR 大使就任（特典：6日間の旅ほか）

A賞 1名／2泊3泊の旅

B賞 1名／1泊1日の旅

C賞 10名／地域特産品

ルート名称候補案

松本～高山
を横断すること

山岳と高原と街
を満遍なく移動

1週間以上
の滞在

環境配慮
が感じられる

名称案①

ALPINE-CITY
Wonder
Route

山岳エリアを“満遍なく楽しむ”
(移動できる) ことを想起させる
ルート名称案

名称案②

Northern Alps
Traverse
Route

北アルプスを“横断・迂回”しながら移
動することを想起させるルート名称案

名称案③

Route
(MT) 824

松本～高山間の高低差・距離を空
間的に楽しんでもらうことを表現
したルート名称案
※80km×2400mの略

+

名称案④

自由記入

名称選考委員会を設置し、投票キャンペーン (CP) にて名称を決定していく